

令和5年度 芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

科目	音楽Ⅰ	単位	2	学年	1年 普通科 文理・探究科	使用教科書	高校生の音楽 1 (教育芸術社)
----	-----	----	---	----	---------------	-------	------------------

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
評価方法	定期考査、実技テスト、提出物、活動の様子、発表、その他等から、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的態度の観点別で評価する。

2 音楽Ⅰの評価の観点、規準

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習する態度
観 点	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
規 準	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組む、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	主 な 教 材	評 価 の 観 点			評 価 方 法	配 当 時 間	進 行
						①	②	③			
1	4	期 末 考 査	【歌唱】豊かな声でハーモニーを楽しもう	①発声の基礎を学び、よい響きの声で歌い、よく調和する響きをつくる。	「校歌」 「翼をください」 「魔法みたいに」	○	○	○	a	4	
	5		【歌唱】イタリア語とドイツ語の歌曲を歌ってみよう	①イタリア語とドイツ語の発音に親しみ曲想と歌詞の内容から表現方法の違いを理解して歌う。	「O sole mio」 「野ばら」	○	○	○	a c	6	
	6		【器楽】拍の流れを全員で共有しよう。	①2拍目、4拍目にアクセントがあるオフビートの音楽をメンバー全員で共有する。 ②強弱や拍子感をもって、打楽器アンサンブルとしても演奏効果を高める。	「Clapping Quartet NO.1」	○	○		a c	5	
	7		【鑑賞】物語と音楽の関わりを理解し、作曲者が工夫したことを探究しよう。	①物語と音楽の関わりを理解して、音楽表現の工夫を感じ取る。 ②それぞれの楽器の特徴を理解して、音の重なりなど多様な音色を味わう。	「魔法使いの弟子」		○	○	a c d	8	
2	9	期 末 考 査	【器楽】ギターを弾こう	①単旋律、コードでグループアンサンをする。 ②ギターでコードを弾きながら弾き歌いができる。	「ていんさぐぬ花」 「カントリーロード」	○	○	○	a c d	7	
	10		【器楽】郷土の音楽	①地域で育まれた音楽を知り、弾き歌いができるようになる。	「なりやまあやぐ」 「豊年の歌」	○	○	○	a b c	10	
	11		【鑑賞】ベートーヴェンの歓喜のメロディーを知ろう	①シラーの頌歌をもとに、ベートーヴェンの表現した音楽から、その表現意図を読みとろう。	「ベートーヴェン交響曲第9番」		○		a d	7	
	12		【歌唱】歌い継ぐ日本の心	①歌詞のストーリーを読み取り、日本語のイントネーションと旋律線の関係を理解する。	「この道」 「待ちぼうけ」	○	○	○	a b c	5	
3	1 2	学 年 末	【歌唱】合唱のよろこび	①音楽表現に必要な要素を理解し、それらの働きを生かして歌グループ発表会を通して、音楽の要素を知覚しながら相互評価をする。	「つないで歌おう」	○	○	○	a d	10	
	3		【創作】リズム創作	日常生活をテーマに歌詞をつくり、リズムを組み合わせてグループアンサンブル曲を作る。	「グループでリズムアンサンブルを創作する」	○	○	○	a d	8	

《評価方法》a. 授業に対する意欲／b. 学習ノート／c. ワークシート／d. 実技テスト・定期考査

令和5年度 芸術科「音楽Ⅱ」シラバス

科目	音楽Ⅱ	単位	2	学年	2年 普通科	使用教科書	高校生の音楽 2 (教育芸術社)
----	-----	----	---	----	--------	-------	------------------

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
評価方法	定期考査、実技テスト、提出物、活動の様子、発表、その他等から、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的態度の観点別で評価する。

2 音楽Ⅱの評価の観点、規準

	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
観 点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	楽曲の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現を工夫し、表現の意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
規 準	楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	旋律、強弱、リズム、速度など知覚・感受し、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	イメージをもって音楽表現するために、発声や発音、読譜、楽器の奏法などを身につけ創造的に表している。	楽曲の文化的歴史的背景、作曲者による表現の特徴、演奏者による表現の特徴の理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって聴いている。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	主 な 教 材 曲	評 価 の 観 点				評 価 方 法	配 当 時 間	進 行
						①	②	③	④			
1 学 期	4	期 末 考 査	【歌唱】歌詞の内容を理解して、表情豊かに独唱曲を歌おう	①姿勢や発声に意識を向けるとともに、歌詞の内容を理解してイメージをもって歌う。 ②歌と伴奏それぞれの役割をよく理解して表現に生かす。	「Born This Way」「糸」「何度でも」「からたちの花」	○	○	○		a b c	4	
	5		【鑑賞】世界のポピュラー音楽の魅力を感じ取ろう	①ジャズやロックを、リズムなどの特徴について理解を深めながら楽しんで鑑賞する。	「In the Mood」「Livin on Prayer」	○			○	a c	4	
	6		【器楽】リズムアンサンブルを楽しもう	①リズムの読譜や記譜に関心をもち音楽表現に生かす。 ②イメージをもって創造的かつ主体的にリズムアンサンブルに取り組む。	「クラッピングカルテット No2」	○	○	○		a d	6	
	7		【鑑賞】斬新なリズムと響きによる表現を感じ取ろう	リズムと和音の特徴を理解して鑑賞し、作品の背景を知り、自分の意見をまとめる。	「春の祭典」	○			○	a c	6	
2 学 期	9	期 末 考 査	【器楽】ギターの弾き歌いに挑戦しよう	①ギターの奏法と表現上の効果とのかかわりに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 ②基本的な奏法、タブ譜、コード譜を習得する。	「糸」「放課後の音楽室」「いとしのクレメンタイン」	○	○	○		a c d	8	
	10		【鑑賞】西洋音楽の歴史を理解するとともに、鑑賞の力を高めよう	①楽曲の文化的・歴史的背景や楽曲分析などから、楽曲の表現の特徴を理解するとともに、批判活動を通して主体的に鑑賞する。	「レクイエム」	○			○	a c	7	
	11		【器楽】リズムの特徴を感じながら楽器の音色を工夫して合奏を楽しもう	① スウィングや拍の組み合わせを感じてノリのよい合奏をする。	「One」「America」	○	○	○		a d	10	
	12		【鑑賞】特定のイメージを呼び起こす旋律を聴こう	① 多くの作品において死や不安を暗示する部分に用いられてきたグレゴリオ聖歌の〈怒りの日〉の旋律を感じ取る	怒りの日	○			○	a c	6	
3 学 期	1 2	学 年 末	【創作】メロディーの創作と変奏や編曲に挑戦しよう。	①変奏や編曲に挑戦して表現の工夫の幅を広げる。 ②長調、短調の音階の特徴、旋律にふさわしい音の組み合わせ、つくった旋律にコードなどを作る。	モチーフを生かしてメロディを作ろう「自作曲」	○	○	○		a c	15	
	3		【器楽】郷土の音楽に親しもう	① 沖縄や宮古島で育まれた民謡などを通して、文化や精神を学ぶ。	「豊年のうた」「なりやまあやぐ」	○	○	○		a d	4	

令和4年度 芸術科「音楽表現」 シラバス

科目	音楽表現	単 位	2	学年	3年 普通科 理数科 選択	使用教科書	Joy of Music(教育芸術社)
----	------	--------	---	----	---------------	-------	---------------------

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	音楽作品についての演奏研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する能力を養う		
評価方法	定期考査・・・40%	実技テスト・・・40%	提出物・授業態度・発表点・その他等・・・20%

2 音楽Ⅲの評価の観点、規準

	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
観 点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	楽曲の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現を工夫し、表現の意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
規 準	「歌唱」「器楽」「創作」の表現領域、「鑑賞」の鑑賞領域に積極的に取り組んでいる。	基礎的、基本的な知識・技能を活用しつつ、生徒自身で説明、論述などの言語活動を通して、表現の工夫ができる。	発声や身体の使い方、読譜、楽器の奏法などを身につけ、創造的に表現している。	楽曲のもつ特性を、諸要素を関連付けながら鑑賞し、自分の言葉で感想を表現することができる。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	題 材 名	学 習 活 動	主 な 鑑 賞 曲	評 価 の 観 点				評 価 方 法	配 当 時 間	進 行
						①	②	③	④			
1 学 期	4	期 末 考 査	表現のための技能を高めよう～発声練習やソルフェージュを通して～	①曲想と歌詞の内容がどのようにかかわっているかを理解して歌う。 ②歌と伴奏それぞれの役割をよく理解して表現に生かす。 「女王のエチュード」「霧と話した」	■声楽曲 シューベルト：「魔王」	○	○	○		a	4	
	5		表現上の効果を生かして歌おう～アンサンブルを通して～	①各パートの役割や全体の響きについて一人一人が主体的に考え、音色、フレーズ、強弱などを工夫してアンサンブルをする。 「ほたるこい」	■声楽曲 ビクトリア：「アヴェマリア」 ヘンデル：「メサイヤ（ハレルヤ）」	○	○	○		a c	4	
	6		表現上の効果を生かして演奏しよう～アンサンブルを通して～	①コードについて理解しコードを楽譜におこして演奏する。 ②音色、フレーズ、強弱などを工夫してアンサンブルする。 「ピンクパンサーのテーマ」「ジムノペディ」	■鍵盤 管弦楽曲 チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番	○	○	○		a c d	7	
	7		オペラの〈間奏曲〉に親しもう	①場面の状況や登場人物の心情を理解しながら聴く。 ②音楽的な要素とそれ以外の要素がどのようにかかわり合って総合的な芸術表現が形づくられているかを理解する。	■オペラ マスネ：タイス マスカーニ：カヴァレリア ステイカーナ ビゼー：カルメン	○			○	a b c	7	
2 学 期	9	期 末 考 査	弾き歌いに挑戦～子どものうたを通して～	①弾き歌いをしながら人に聴かせたり、一緒に歌ったりする場合の表現を工夫する。 ②歌と伴奏それぞれの役割をよく理解して表現に生かす。	■童謡、唱歌、わらべ唄	○	○	○		a c d	8	
	10		声の探求⑤ ミュージカル「オペラ座の怪人」 ・組踊り	①ミュージカルミュージカルの歴史と作品について学び。オペラとミュージカルの違いを学ぶ。 ②世界遺産である沖縄の組踊りについて理解する。	■美女と野獣から 「Beauty and the Beast」 ■コーラスライン「One」	○			○	a c	8	
	11		独奏/合奏 ・三線 ・ギター ・キーボード 琉球音楽	①各個人の役割を果たせるよう、各楽器の奏法の習得を目指す。を活かして、グループアンサンブルで演奏する。	■村治佳織 「アルハンブラ協奏曲」	○	○	○	○	a b d	10	
	12		合奏 グループアンサンブルの発表会にむけての取り組み	①グループ発表会を通して、音楽の要素を知覚しながら相互評価をする。 ②グループの興味関心に応じた選曲、楽器編成で自主的な音楽演奏ができる。	■弦楽曲 ブラームス：ヴァイオリン協奏曲二長調 ボロディン：弦楽四重奏曲第2番	○	○	○	○	a b d	3	
3 学 期	1 2	学 年 末	個人による演奏発表会に向けての取り組み	①個に応じて、習得したい楽器を選び、技能の向上と創意工夫された表現力を身につける。	ヨーヨー・マ (チェリスト)	○	○	○		a b d	9	

《評価方法》評価対象： a. 授業に対する意欲/b. 学習ノート/c. ワークシート/d. 実技テスト・定期考査

令和5年度 【美術 I】 シラバス

教科・科目	芸術・美術 I	単位	2	学年	1年 普通科 文理探究科	使用教科書	美術 1 (光村図書)
-------	---------	----	---	----	--------------	-------	-------------

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
評価方法	作品課題、ワークシート、単元テスト、授業様子から、①知識・技能:②(思考力・判断力・表現力):③(主体的態度)の観点で評価する。

2 美術 I の評価の観点

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観 点	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
規 準	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技術を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考るとともに、主題を生成し、創造的に発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

3 学習計画及び評価方法等 評価対象 (ワークシート、単元テスト、作品、学習活動の様子)

学期	月	考查範囲	単元・題材名 (活動)	学習のねらい・内容	教科書の範囲	評価の観点		
						①	②	③
1 学期	4	考查実施なし	オリエンテーション 自己を表す	・社会における美術の役割と学習について	教科書 2～5		○	○
	5		スケッチ 身近なものを描く (表現・絵画)	・短時間で形を捉え、表現する。 ・遠近法や光の描き方によって変化する物体の見え方の違いを感じ取り表現する力を育てる。	教科書 6～9、22～25、84～85	○	○	○
	6		パッケージデザイン (表現・デザイン)	・色の性質や効果の基礎を学ぶ。 ・レタリングの基礎の理解。 ・伝えたいメッセージを話し合い、視覚効果等考え表現する。	教科書 58～59、116～120、	○	○	○
	7		文様で飾る パターンデザイン (表現・デザイン)	・日本や沖縄の伝統模様について知る。 ・身近な植物や生き物など単純な形や色にデザインすることができる。	教科書 54～57	○	○	○
2 学期	9	考查実施なし	文様で飾る パターンデザイン (鑑賞・デザイン)	・日本や沖縄の伝統模様について知る。 ・身近な植物や生き物など単純な形や色にデザインすることができる。 ・自己の表現をプレゼンテーションで伝えることができる。	教科書 54～57		○	○
	10		生命感をあらわす (表現・絵画・彫刻)	立体感や量感、対象から感じ取った生命の魅力を表す。	教科書 38～39	○	○	○
	11		スタンドグラス (表現・デザイン) (鑑賞)	・スタンドグラスの歴史、ガラス、透過光について学び光の美しさや魅力を感じ、自然の形からデザイン構成を考える。	教科書 54～57	○	○	○
3 学期	1	考查実施なし	アニメーションをつくる (表現・映像メディア表現)	・さまざまな技法によるアニメーションを知る。 ・撮影方法を工夫して作品を制作することができる。	教科書 60～61	○	○	○
	2							
	3		作品集 (ポートフォリオ) まとめと振り返り	・1年間の作品や、アイデアスケッチなどをまとめて学習を振り返る		○		

令和5年度 【美術Ⅱ】 シラバス

科目	美術Ⅱ	単位	2	学年	2年 普通科	使用教科書	美術2(光村図書)
----	-----	----	---	----	--------	-------	-----------

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	造形的な見方・考え方を働かせ、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する
評価方法	作品課題、ワークシート、単元テスト、授業様子から、①知識・技能:②(思考力・判断力・表現力):③(主体的態度)の観点で評価する。

2 美術Ⅱの評価の観点

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観 点	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	単元・題材名(活動)	学習のねらい・内容	教科書の範囲	評 価 の 観 点		
						①	②	③
1 学 期	4	考 査 実 施 な し	オリエンテーション 自己を表す	・美術1での授業内容の確認。 ・美術2の授業への関心や意欲高めるため互いに教科書をみながら作品について対話する。	教科書2～5		○	○
	5		フォントデザイン (表現・デザイン)	・伝えたいイメージを形にする ・自己を見つめ自分自身のイメージを形にし表現する。	教科書6～9、22～25、84～85	○	○	○
	6		名画から学ぶ配色 (表現・絵画)	・色の性質や効果の基礎を思いだし、トーンや配色の効果も考え表現する。 ・自分の通学路について、その手段やかかる時間を形や色を使った絵グラフなどで視覚化し伝える力を育てる。	教科書58～59、116～120、	○	○	○
	7		不思議な空間をつくる (鑑賞・表現・絵画)	・エッシャーの作品を鑑賞し互いに意見交換を行う。 ・鑑賞で気づいたこと学んだことを作品に生かすことができる。	教科書32～33	○	○	○
2 学 期	9	考 査 実 施 な し	想像上の生き物をつくる (表現・絵画・彫刻) ものに宿る魂(鑑賞)	・日本や沖縄の伝統模様について知る。 ・身近な植物や生き物など単純な形や色にデザインすることができる。 ・自己の表現をプレゼンテーションで伝えることができる。	教科書54～57		○	○
	10		版表現の可能性 (表現・絵画)	・版画でしか表現できない線の面白さや表現に気づき制作に生かすことができる。 ・彫り進み技法で生まれる形の偶然性などを楽しむことができる。	教科書38～39	○	○	○
	11 12		ミュージックビデオを作る (表現・映像メディア表現)	・撮影や編集を工夫して、曲のイメージを豊かに伝える映像をつくる。 ・見る人の反応を考えながら発想や構想を練る。 ・完成した作品を互いに鑑賞し表現効果が適切か考える。	教科書54～55	○	○	○
3 学 期	1 2	考 査 実 施 な し	住まいをデザインする (表現・デザイン)	・住む人々のことや土地の風土などを考えて住宅の構想を練る。 ・色や配置、空間を考えバランス良くデザインすることができる。	教科書44～47	○	○	○
	3		作品集(ポートフォリオ) まとめと振り返り	・1年間の作品や、アイディアスケッチなどをまとめて学習を振り返る		○		

令和5年度 【美術表現】 シラバス

科目	美術表現	単位	2	学年	3年 普通科 理数科 選択	使用教科書	
----	------	----	---	----	---------------	-------	--

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	造形的な見方・考え方を働かせ、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する		
評価方法	作品課題・・・50%	作品ポートフォリオ（スケッチブック）・・・30%	授業態度・・・20%

2 美術表現の評価の観点

	①関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
観点	創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから個性豊かに主題を生成し、創造的な表現の構造を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。日本及び諸外国の美術文化より美意識や創造性を感じ取る。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月 時数	単元・題材名（活動）	学習のねらい・内容	主な教材	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4月 6時間	ロゴマーク （表現・デザイン）	・美術のオリエンテーションとして、これから始まる美術表現の授業への関心や意欲を社会との関りをイメージしながら高める。 ・自己を見つめ自分自身が好きなことを見つける。	ワークシート 画用紙	○			○
	5月 8時間	私の好きなアーティスト （鑑賞・表現・美術史）	・アーティストについて理解を深めその人の歩んできた歴史を見つめる。 ・情報収集・まとめ・プレゼンテーションを他者に伝える事を意識してまとめることができる。	ワークシート 画用紙	○	○	○	○
	6月 7月 8時間	木炭で描く （表現・絵画）	・木炭の特性・使い方について知る。 ・描く、消す、塗る、はたく、こするなどの効果を使い自己のイメージに合った表現ができる。 ・物をよく見て描く、陰影を意識して描くことができるように制作する。	スケッチブック 画用紙 木炭用具	○	○	○	○
夏休みの課題：各種美術コンクールへの取り組み/風景や人物の撮影								
2 学期	9月 8時間	テーマを考え制作しよう （表現・絵画・デザイン・立体）	・鉛筆、アクリル、油絵、粘土等画材の特性を理解する。 ・自己のテーマにあった道具を選び主体的に制作に生かすことができる。 ・互いの素材の良さに気づき、作品を鑑賞することで制作の幅について知ることができる。	ワークシート 画用紙 油彩道具 水彩道具 鉛筆 石粉粘土	○	○	○	○
	10月 8時間	くるくる絵画 （表現・デザイン）	・画用紙を巻いてできる形の面白さに気づき制作に生かすことができる。 ・配色の仕方、形のバランスなどを考えて構成することができる。	ワークシート 画用紙 箱	○	○	○	○
	11月 12月 12時間	革でコインケースを作ろう （表現・工芸）	・革の素材のもつ魅力について知る。 ・制作手順を理解し、イメージに合った表現をみつけ制作することができる。 ・自ら作った作品を愛着をもって使用することができる。	ワークシート 革 革用具	○	○	○	○
3 学期	1月 6時間	日頃の感謝を込めて （表現・絵画）	・身近な人に作品を通じて感謝を伝える。 ・いろいろな素材を創意工夫し制作に生かす。 ・平面や立体と個々に合った制作方法を選択する。	ワークシート 作品	○	○	○	○
	2月 6時間	作品集（ポートフォリオ）まとめと振り返り						